

わがまちみらいマネジメント講座
「つぶやきの育て方～参加したくなる会議をつくろう～」
実施報告書

- 1 日 時 令和4年11月13日（日）13時～16時
- 2 開催場所 長崎市消防局5階講堂（長崎市興善町3-1）
- 3 開催目的 地域活動のリーダー等を対象として、地域活動における運営能力の向上や地域活性化に効果的な手法の習得を目指す
- 4 テーマ これからのリーダーに求められる心得や意見を促すスキル（ファシリテーション）の習得を通して、地域活動における人の巻き込み方や担い手育成を学ぶ。
- 5 参加者 24名
- 6 講師 畠中 智子氏（株式会社わらびの 代表取締役）

高知県生まれ、高知県在住。1992年に「高知のまちづくりを考える会」を発足後、市民誰もが参加できるスタイルとしてワークショップ手法に着目。

「自由で気楽で形式張らない」を合言葉に、様々なジャンルで参加型での話し合いの場を企画しファシリテーターとしてサポート。各地で研修や講演も実施している。

2012年に自信が代表取締役を務める「株式会社わらびの」を設立し、高知ならではの魅力を高める様々な事業にも取り組んでいる。



7 実施内容

(1) 座学「ファシリテーターとファシリテーションとは」

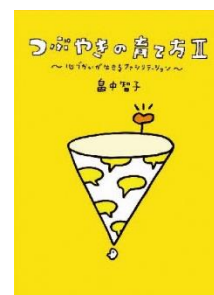
○ファシリテーターとしての心得や手法についての解説

畠中さんの著書「つぶやきの育て方」をテキスト（一部抜粋）に、ファシリテーターとしての心得や手法、畠中さんが日頃ファシリテーションを行う際に心掛けていることなどを学びました。

・ファシリテーション・ファシリテーターってなに？

「ファシリテーション」とは、物事を容易にする、円滑にする、促進することと、世話をすることと、支援することなどを意味します。

「ファシリテーター」とは、会場の様子を見ながら、会議にみんながついていけているか、会議の内容を理解できているかなどに、気を配りながら、会議を支援する人のことをいいます。



・ファシリテーターに求められる心配り・配慮

① コミュニケーションを手助け

発言した人がどのような想いで話しているか、相手の立場に立って理解しようと心掛け、難しい言葉を簡単な言葉に言い換えたり、補足説明を促したりして、参加者全体の理解が進むように手助けをします。

② バランスに配慮

発言の機会の平等性を大事にする。発言することに慣れていない人が、話し続けるとそうではない人が話しにくくなるため、せっかく足を運んでくれた人にも平等に発言の機会を与えるように促す。また、賛成か反対かという対立構造にならないように、中立の立場で、異なった意見の歩み寄りを図ります。

③ ナビゲーション力

達成目標に向けて話し合いが進められているかを意識し、脱線したり、混乱したりしたら、話を本筋に戻します。

(2) グループワーク「形式張らない会議にするためのポイント」

○ゆるりとはつぶやきをつなぐ（事例紹介）

つぶやきが育つ場づくりについて、事例の紹介がありました。

●「高知のまちづくりを考える会」について

畠中さんが、生活者の視点でまちづくりを語りたいという思いで、「高知のまちづくり

を「考える会」を1992年に設立しました。当時、市民がまちづくりを考える場自体が珍しく、多くの人に関心を持って参加してくれました。同じ世代に偏らないように中学校に声を掛けたところ、中学生も「ぜひ参加したい!」と参加を決めてくれたそうです。

会議の場所といえば、公民館や会議室などをイメージしますが、「商店街」で高知県の教育行政、福祉行政などを子どもたちも含めて話し合いました。話し合いの様子を買い物客が見て、会議の内容に多くの人に興味を持ってもらうことができたそうです。

●食文化×観光

「〇〇さんがつくった山菜からできたお弁当」など、お弁当づくりに関わってくれた地域の人々の名前をお弁当につけることで、地域の人々も誇りを持てるし、観光客もその集落の日常をイメージできます。地域の食文化と観光の視点を組み合わせた事例です。

●地域の文化×交通安全

ありがちな標語を作るのではなく、地域の人々を巻き込んでポスターをつくりたいということで、町の議員さんを含め、色々な人に会議から撮影まで参加してもらいました。「この地区の交通安全の課題は何か」から話し合い、地域の特徴と組み合わせた3枚のポスターを作りました（愛媛県松前町）。その結果、ほとんどの家庭で飾ってもらえたそうです。



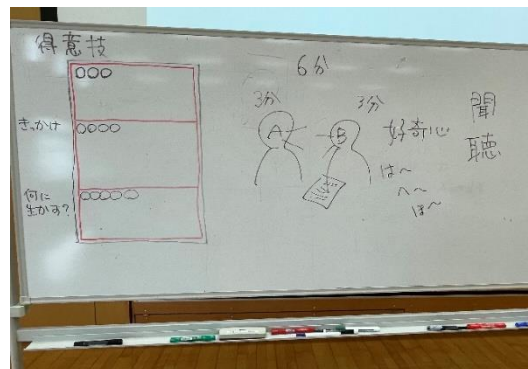
話し合いの場所を工夫したり、話し合いの段階で多くの人々を巻き込んで、一緒に作り上げる過程を大切にしたりすることで、わくわくする自由な会議の場で、多くの人々の関心を得ることができます。

○似顔絵他己紹介

口の字型の配置から、4つのグループに分かれ、ウォーミングアップとして、似顔絵を使った他己紹介をしました。

【似顔絵他己紹介】

- ① 手づくりのインタビューシートを作成します。
(3つの質問項目「得意なこと」「講座を受けたきっかけ」「講座を何に活かすか」を書き入れる)
- ② 向かい合わせの人とペアになります。
- ③ お互いにシートの裏面に似顔絵を描き合います。(手元を見ずに30秒で)
- ④ 3分ずつでインタビューし、相手が話したことを
- ⑤ シートに書き込みます。
- ⑥ インタビューシートをもとに、グループ内で他己紹介します



【ねらい】

緊張した空気を解きほぐし、気楽に参加できる雰囲気をつくります。

また、相手の話を、心を込めて相槌を打ちながら聴くことで、話すのが苦手な人でも、話すハードルが低くなります。

○旗揚げアンケート

次に、会議の中で参加者全員の思いを確認する手法として、旗揚げアンケートを行いました。

【旗揚げアンケートの進め方】

- ① 設問を提示します。
※今回の設問は、「何歳までが子どもか」です。
- ② 選択肢を読み上げます。
- ③ 一斉に旗（色用紙）を掲げてもらいます。
※今回は赤、青、黄色、緑、白の5色の色用紙を使い、「中学生までは赤」「高校生までは青」「20歳までは黄色」「大学卒業までは緑」「その他は白」という設定で行いました。
- ④ 全体にそれぞれの選択肢に何人の手が上がったか報告します。
(割合でもいいです)
- ⑤ 何人かに選んだ理由を尋ねるなど、参加者とやりとりをします。



旗揚げアンケートは賛成、反対の意見が明確なときや、選択肢が決まっているときに使う場合が多く、お互い言い分を聞きながら、思った意見の歩み寄りを図ったり、折衷案を得たりするときなどに活用できる手法です。今回は、「何歳までが子どもか」を設問に、旗揚げアンケートを行いました。

選んだ理由を尋ねると、「大学生になってから急に自由になったから高校生までは子ども」「20歳になったときに、大人になったと実感したから20歳までは子ども」、「親が亡くなるまで子どもは子ども」との意見がありました。

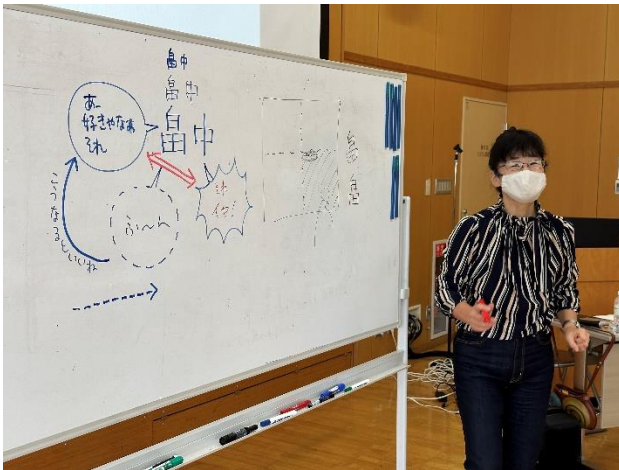
「子どもは何歳までと思うか、手を挙げて理由まで教えてください。」というと、手がなかなか挙がりませんが、旗揚げアンケートでは、まず、選択肢から自分の考えに近いものを選んで旗を挙げてもらって、理由を聞くという流れをとるので、様々な意見が出るようになるということです。

○ファシリテーション・グラフィックのテクニック

ファシリテーション・グラフィックとは、意見のありようを視覚的に確認するための手法で、話し合いの現在地と行き先がひと目で確認でき、参加者の共通理解が進みます。

模造紙に実際に書いてみながら、様々なテクニックを教わりました。

- ・ 会議であったら便利な道具たち（付箋紙、水性マーカー、方眼模造紙、布ガムテープ）
- ・ マーカーの持ち方
- ・ 文字の色、大きさの工夫
- ・ 矢印の種類
- ・ 文字、図形、アイコンの使い方



(3) 質疑応答

○質問タイム

講座の最後には、グループワークで島中さんに質問したいことについて、付箋を使って意見を出し合い、ファシリテーション・グラフィックのテクニックを使って模造紙に書き出し、島中さんに質問に答えてもらいました。



【出た質問と畠中さんの答えを一部ご紹介！】

● 意見がまとまりそうにないときは？

→議題の設定の仕方に無理がある場合があるので、議題の設定を見直す。「きたんのない意見を」という投げかけでは、話がまとまらないので、小さな議題での話し合いを積み重ねていく。

● 人が集まる場の作り方は？

→誰を集めたいか、何のために集めたいか、目標を明確にして発信することが大切。

● 丁寧で見やすい記録のコツは？

→「慣れ」です！ニュースを観て、ファシリテーション・グラフィックのテクニックを使って、模造紙にメモをする練習をして上手になった人もいます。

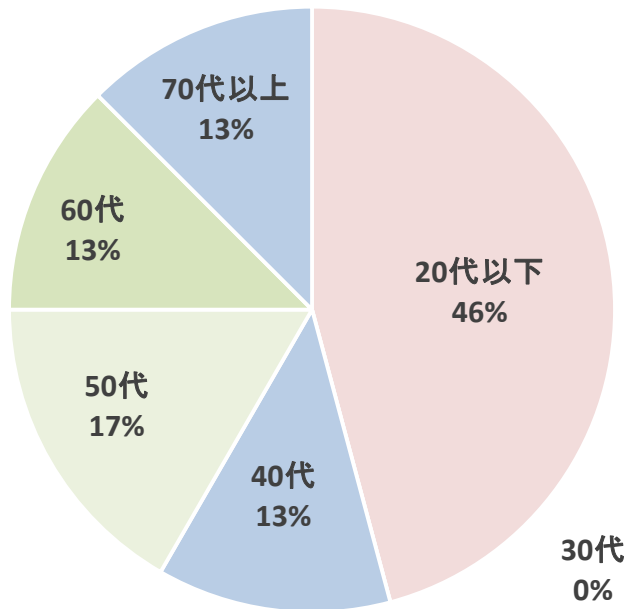
8 アンケート結果

別紙「アンケート結果」参照

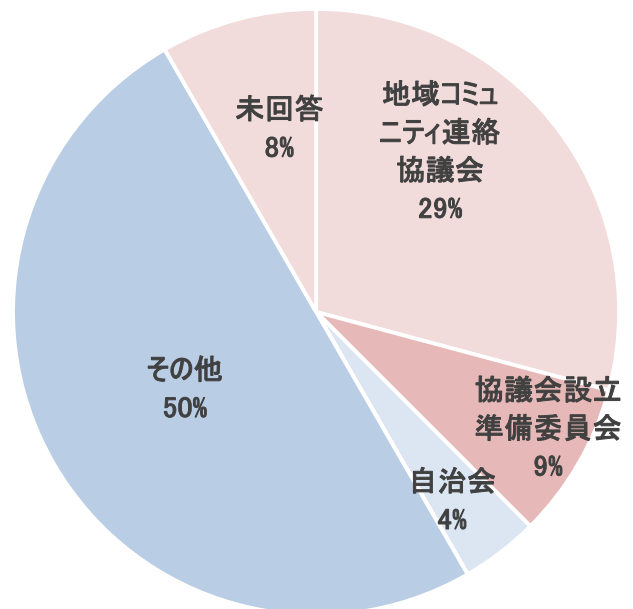
わがまちみらいマネジメント講座
令和4年11月13日開催「つぶやきの育て方」アンケート結果

回答者24人（参加者24人）

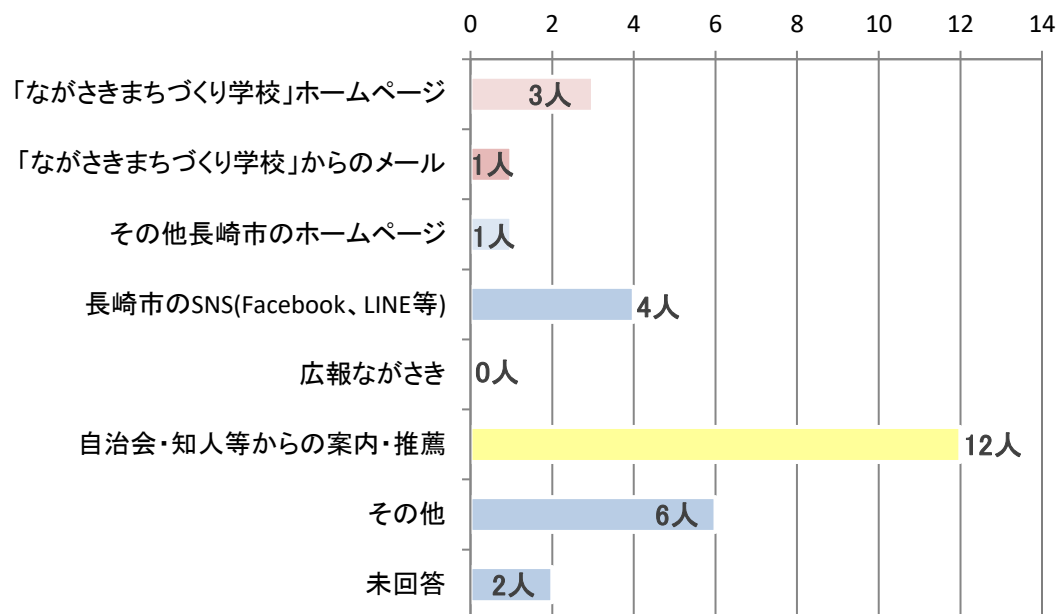
参加者 年代比率



参加者 団体比率



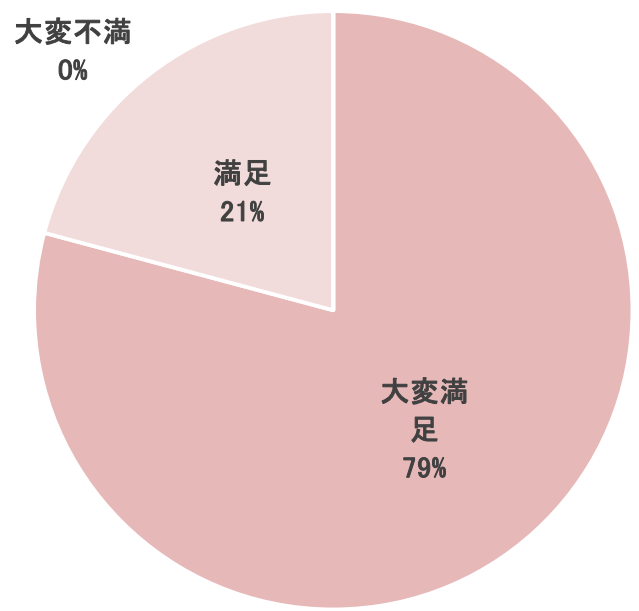
1 本日はどのようなきっかけでご来場されましたか？（複数可）



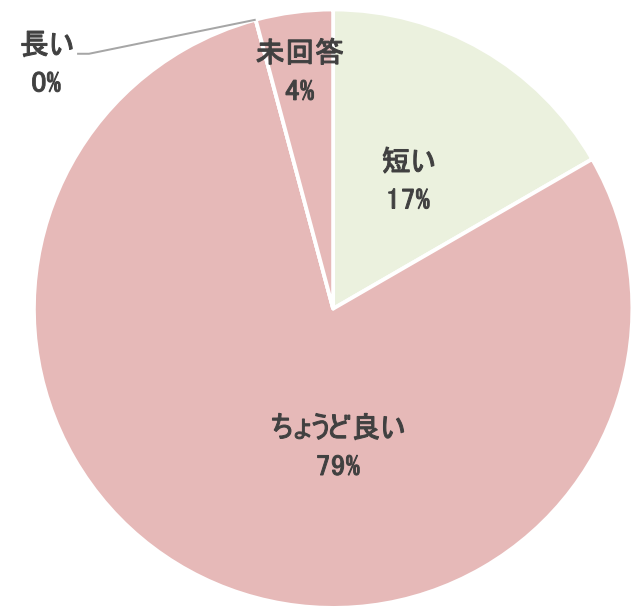
【単位：人】

2 本日の講座の評価について、当てはまるものを選んでください。

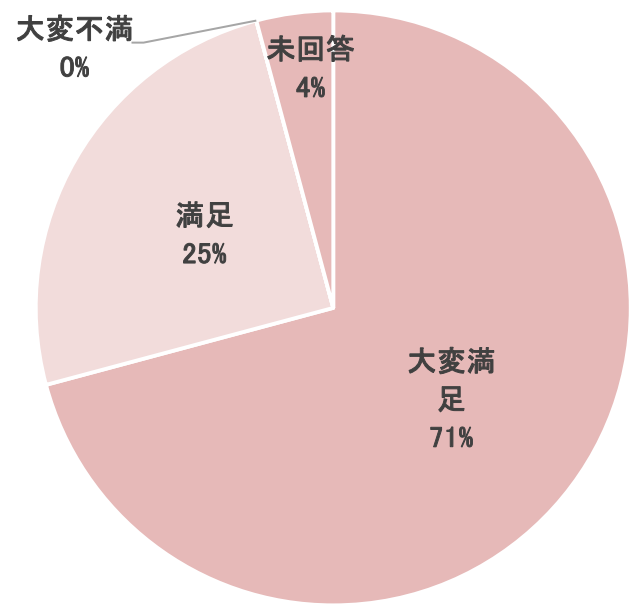
(1) 講座内容について



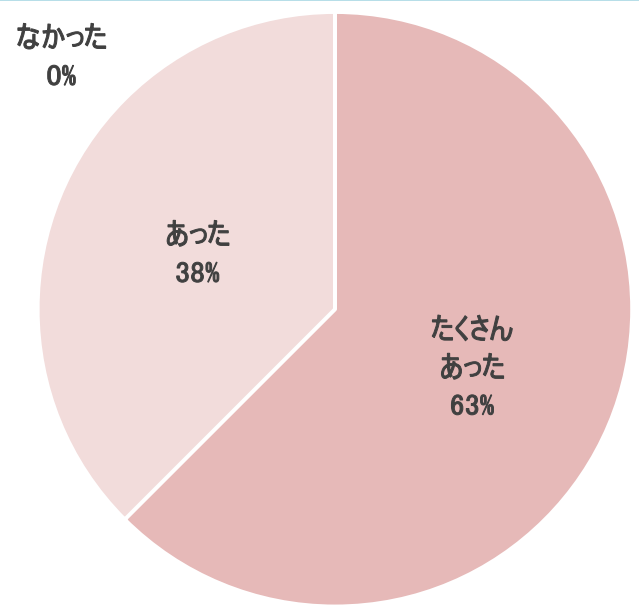
(2) 時間配分について



(3) 全体的に（事務局の対応等も含めて）



3 新たな発見や活動の参考になることはありましたか？



4 新たな発見や活動の参考になったこと（自由記述）

内容
旗揚げアンケートや模造紙の字の書き方など初めて聞く手法が多くあり勉強になった。
開始20分で緊張が解けたのが参考になりました。
・意見を聞く前にまずはジャンル分けする(旗揚げアンケート) ・グラフィックレコーディング
ハタあげが便利
ファシリテーショングラフィックのスキルの大切さ、旗あげカードの活用、リモート会議のファシリターの仕方(チャットの活用など)
今まで言語化できなかった疑問やモヤモヤが言語化されて、かつ解決への糸口になりそうな話が聞けた。主に人の集め方や進め方。
何か模造紙に書く活動があった際に、一つ一つの意見に対してコメントを書くというのは、その時に話し合った状況をあとから見ても分かりやすく、これから使えそうな技術だと思った。
・場をあたためる手法 ・意見の中野グレーゾーンを大事にすること
ヤル気が一番だな。それと元気・明るさ。
似顔絵他己紹介、道具、旗あげ、模造紙
若い人や新しく参加してくれた方々が活躍できるような配慮や姿勢が学べたこと。
普段自分がワークショップ等で感じたファシリターのやりにくさを少し軽減できた。
意見を出し合う＝会議を開く、という形にとらわれないこと(食事や飲み会の中で話し合うなど)
普段関わることのできない他の職種、市民の方々と話せてとてもいい機会になった。話し合いの際の模造紙の使い方は業務を円滑に進める上でも活用できると感じた。
最後の質問コーナーの内容
つぶやきの育て方
「自分の意見は場違いではない」を可視化する作業がとても面白かった。
意見の出し方、まとめ方
ファシリテーショングラフィックについて学べた。ワークショップなどで活用できそうな技がたくさんあった。
①講義の進め方。②雰囲気づくり。③グループの一体化。
○×○コラボ企画
ゆるりと本音を聞くためのコミュニケーションをもっと考えたいです

5 今後学んでみたいこと（自由記述）

内容
会議に様々な属性の人々を呼び、多くの人を集めることが重要だと思った。今後は集客の方法を学んでみたい。
参加出来たらしたいです。
ファシリテーター視点での参加者の意識やあり方
地域のいろんな資産を掘り起こす手法
会議での意見の引き出し方
集まってほしい人たちにどのように集まってもらうか、意見が対立したときにどのようにまとめていくか。
会議をする際は、いかに楽しい場に行けるかをさらに学んでみたい。
各層、老人から幼児までコミュニケーションのよりよい取り方。
アイデアの生み出し方、地域資源の見つけ方
動員力
またファシリのことについて学びたい。
市の取組に対する市民の方々の意見。
先進例
ワークショップ(自治会)をやってみたい。
地元で活動する人のことも、もっと細かく色々なジャンルで知りたい。
現在参加できていない方々に参加してもらい、多くの意見を聞きたい。
地域の中の意見、資源などをどのように収集していけばよいか。
リーダーの育成。
途中退席したので、次回またきちんと受講したいです。
…しながらは、誰でも魅力的ですね。
実施計画書の作り方(事業計画)

6 その他、ご意見・ご要望、感想など（自由記述）

内容
大学のグループワークなどで今回学んだ方法をぜひ活用してみたいと思います。
本当にあつという間でした！ 得るものが沢山あって、活動に活かしていきたいです！
今回参加を決めたのは、畠中さんが高知県の方だったからです。中高時代過ごした大好きな土地の方からお話が聞けて、とてもありがたかったです。ありがとうございました！！
将来にとっても役立てそうな話やスキルを学ぶことができ良かったと思う。
大変参考になりました。
バイタリティーに感銘した。
こういう研修に参加したものの、どちらかというと自分が発言するのは苦手です。ですが、今日は楽しみながら参加でき、会の進め方、進行役でこんなに気持ちよく参加できるものかと思いました。
所属業務上、業者の方と調整などで、話し合いをすることが多々あり、その中で意見が対立することもあるので、今日学んだ人と人との対立ではないということを念頭に置き調整を進めて行きたい。
楽しくファシリテーションが学べました。
現在、地域コミュニティの団体役員であるが、どうしても下からの盛り上がりが困難でリーダーからの指示待ち。これをどう改善するかに悩んでいる。
話がすごく分かりやすく、ためになりました。